

令和6年 5月31日	病害虫発生予報 6月号	茨城県病害虫防除所
---------------	----------------	-----------

安全かつ適正な農薬の使用と保管管理に努めましょう。

～令和6年度茨城県農薬危害防止運動が始まります（6/15～9/14）～

< 目 次 >

I. 今月の予報	
【注意すべき病害虫】	
水稻：縞葉枯病（ヒメトビウンカ）	1
【防除所レポート】イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）の防除適期の予測	1
【防除所レポート】イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の高い地点が認められています。	2
水稻：ニカメイガ	3
○水稻のいもち病の防除について	3
ナシ：黒星病、ナシヒメシンクイ（第二世代幼虫）	4
【防除所レポート】ナシヒメシンクイの防除適期の予測	5
果樹共通：チャバネアオカメムシ	5
半促成ピーマン：アザミウマ類	6
夏ネギ：黒斑病（葉枯病を含む）、べと病	6
共通害虫：オオタバコガ、シロイチモジヨトウ	7
【その他の病害虫】	
水稻、ナシ、ブドウ、半促成ピーマン、夏ネギ	8
○サツマイモ基腐病の防除対策（植付期～生育期）	9
【防除所レポート】コムギ赤かび病の発生状況と今後の対策について	10
II. 今月の気象予報	11
最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの 「農薬登録情報提供システム」（https://pesticide.maff.go.jp/）で確認することができます。	
詳しくは、茨城県病害虫防除所へお問い合わせ下さい。Tel：0299-45-8200 ホームページでは病害虫・フェロモントラップ・農薬関連情報がご覧いただけます。 https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/	
※病害虫の発生状況や、適切な防除方法は地域により異なる可能性があります。病害虫の防除や 農薬についてのご相談は、お住まいの都道府県にある病害虫防除所等の指導機関にお問い合わせ ください。	



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. 縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
早い	平年並～やや多い	県西地域、県南、 県央の一部地域

[予報の根拠]

- ① 5月中旬現在、県西・県南地域の小麦圃場におけるヒメトビウンカの10回振りすくい取り虫数は平年並である。
- ② 5月に採集したヒメトビウンカ第一世代幼虫におけるイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、県西・県南地域12地点中3地点で、5%以上の高い値であった。（次ページ 防除所レポート 参照）
なお、越冬世代幼虫では県西・県南・県央地域で同ウイルス保毒虫率の高い地点を認めている。
- ③ 5月31日現在、有効積算温度から計算した水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の産卵最盛日は、平年より早いと予測される。

[防除上注意すべき事項]

- ① 本病の発生地域で、近年、ヒメトビウンカを対象とした育苗箱施用してもなお本病の発生が多かった水田や、本年育苗箱施用をしなかった水田等では、ヒメトビウンカを対象とした本田防除を行う。防除適期については下記の防除所レポートを参照する。
- ② 育苗箱施用と本田散布の体系防除を行う場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤を選択する。

防除所レポート【イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）の防除適期の予測】

- ① イネ縞葉枯病対策としてのヒメトビウンカの本田散布の防除適期は、ヒメトビウンカ第二世代幼虫の発生開始期から増加期（産卵最盛日から7日後までの間）である。
- ② 5月31日現在、有効積算温度から計算した水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の産卵最盛日は、平年より早いと予測される（表）。
今後の気温の推移によっては、表に記載した産卵最盛日および防除適期は数日程度変わる可能性がある。

表 水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の予測産卵最盛日および予測防除適期※

	アメダス地点	古河	下館	下妻	つくば	土浦	笠間	水戸
予測産卵最盛日	本年	6/2	6/5	6/5	6/5	6/3	6/11	6/8
	平年値	6/9	6/13	6/12	6/13	6/11	6/17	6/15
予測防除適期	本年	6/2-9	6/5-12	6/5-12	6/5-12	6/3-10	6/11-18	6/8-15

※有効積算温度から予測した産卵最盛日（5月31日現在）。防除適期は、予測した産卵最盛日から7日後までの間。

イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の高い地点が認められています。

水田でのヒメトビウンカの防除を行いましょう。

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病であり、多発するとイネが減収します。発病すると治療はできないため、ヒメトビウンカを対象とした防除が重要です。

令和6年5月24日付病害虫速報 No. 3において、水田におけるヒメトビウンカの防除適期が早まる見込みであることを発表しました。今回は、ヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス（以下、RSV）保毒虫率についてお知らせします。

[現在の状況]

本年5月に県西・県南地域の小麦圃場から採集したヒメトビウンカ第一世代幼虫のRSV保毒虫率は、12地点中3地点で5%以上の高い値となった（表）。

表 ヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の年次推移

地域	調査地点	RSV保毒虫率（％） ¹⁾				
		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	本年 ²⁾
県西	古河市 水海	— ³⁾	3.7	5.3	2.7	1.1
	結城市 結城	11.7	6.3	7.4	3.2	7.4
	下妻市 高道祖	11.7	5.9	2.7	1.1	4.3
	常総市 三坂町	9.0	5.9	3.2	1.1	3.7
	筑西市 二木成	10.1	9.0	3.2	5.9	5.9
	坂東市 神田山新田	—	5.3	1.1	—	2.7
	桜川市 加茂部	7.4	5.3	5.3	5.9	4.3
	原方	3.7	7.4	2.1	4.8	3.7
	八千代町 高崎	14.4	8.5	6.4	5.3	13.8
県南	つくば市 大形	5.3	5.9	3.7	3.2	2.7
	杉木	—	—	5.9	1.6	3.7
	つくばみらい市 市野深	5.3	6.9	1.6	5.3	3.2

1)簡易ELISA法により検定した。

2)採集日：令和6年5月10、14、15、16、17、21日、検定実施日：5月27日。

サンプル数：各地点188頭。

3) —：未調査

[防除対策]

- ① ヒメトビウンカに対する防除適期が早まる見込みのため、本田防除を行う場合は、前ページ防除所レポートを参考にして、防除適期をよく確認する。
- ② イネ縞葉枯病の発生地域で、近年、育苗箱施用剤を使用してもなお本病の発生が多かった水田や、本年育苗箱施用剤を使用しなかった水田等では、ヒメトビウンカを対象とする本田防除を行う。
- ③ 無人航空機や乗用管理機等による本田散布を行うことができない場合は、投げ込み型の殺虫剤による本田防除を行う。
- ④ 育苗箱施用と本田散布の体系防除を行う場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤を選択する。
- ⑤ イネ縞葉枯病抵抗性品種を作付けしている水田であっても、ヒメトビウンカの増殖場所となるため、本病の多発地域では防除を行う。

(水稲 続き)

2. ニカメイガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月第4半旬までのフェロモントラップへの総誘殺数は、龍ヶ崎市で平年よりやや多く、水戸市で平年並～やや多い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 例年発生が目立つ水田では、第一世代幼虫を対象とした薬剤防除を実施する。

水稲のいもち病の防除について

[現在の状況]

5月下旬現在、調査圃場の置苗において、本病の発生は認めていない。

[発生好適条件]

気温 20～25℃で、弱い雨や霧などが続いてイネの葉が長時間濡れるような条件のとき、一般的に6月の高温多湿、7～8月の低温多雨は発生を助長する。

[防除上注意すべき事項]

- ① 置苗は本病の発生源となるため、速やかに本田から持ち出して適切に処分する。
- ② 常発地で、育苗箱施用剤を使用していない水田では、特に発生に注意する。
- ③ 本病は例年6月下旬から発生する。粒剤による本田防除の適期は初発前～初発時なので、適期を逃さずに防除する。
- ④ 粒剤の施用時期と中干しの時期が重なる場合には、中干し後に必ず湛水状態にしてから粒剤を散布する。

※ 防除所 HP にて、6月より BLASTAM (アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム) による葉いもちの感染好適日の出現状況を随時掲載する予定ですので、ご参照ください。

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、果そう基部における発病率（本年値 0.08%、平年値 0.04%）、発生地点率（本年値 15%、平年値 6%）ともに平年よりやや高い。
- ② 5月下旬現在、果実における発病率（本年値 0.1%、平年値 0.3%）は平年並～やや低く、発生地点率（本年値 30%、平年値 27%）は平年並である。
- ③ 気象予報によると向こう 1 か月の降水量は平年より多いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病した葉および果実等は二次伝染源となるため見つけ次第除去し、園外に持ち出して適切に処分する。
- ② 薬剤散布は、発病部位を除去した後に行うとより効果的である。
- ③ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

2. ナシヒメシンクイ（第二世代幼虫）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、第一世代成虫の発生時期は、越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と有効積算温度から、平年よりやや早いと予測される。
- ② 5月第4半旬までのフェロモントラップへの総誘殺数は、小美玉市、土浦市で平年より多く、かすみがうら市、筑西市（旧下館市）で平年よりやや多い～多く、筑西市（旧関城町）で平年並、笠間市では平年よりやや少ない～少ない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後、第二世代幼虫が発生するため、次ページの防除所レポートを参考に適期防除に努める。
- ② 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

防除所レポート【ナシヒメシンクイの防除適期の予測】

- ① ナシヒメシンクイ第二世代幼虫を対象とした防除適期は、第一世代成虫の誘殺数がピークに達した日の7～9日後である。
- ② 各地点の第二世代幼虫の予測防除適期は、おおむね平年よりやや早い（表）。
- ③ 表中のかすみがうら市、土浦市、筑西市(旧下館市)については、今後、病害虫防除所ホームページで誘殺状況を随時更新するので参考にする。

表 調査圃場におけるナシヒメシンクイ第二世代幼虫の予測防除適期

地点	第二世代幼虫の予測防除適期 ¹⁾		
笠間市	6月18日	～	6月22日
小美玉市	6月15日	～	6月20日
石岡市	6月7日	～	6月11日
かすみがうら市	6月5日	～	6月9日
土浦市	6月5日	～	6月9日
筑西市(旧下館市)	6月11日	～	6月15日
筑西市(旧関城町)	6月8日	～	6月12日

1) 第一世代成虫の誘殺最盛期を基に予測した(5月28日現在)。

果樹共通

1. チャバネアオカメムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 本年1月下旬から2月上旬に県内42地点で行ったチャバネアオカメムシ成虫の越冬調査では、越冬成虫数（本年値9.7頭、平年値1.9頭）は平年より多く、越冬地点率（本年値86%、平年値40%）は平年より高い（令和6年3月26日発表 病害虫発生予報4月号 参照）。
- ② 5月第4半旬までのかすみがうら市の果樹園内に設置した予察灯へのチャバネアオカメムシの総誘殺数は平年より多い。
- ③ 5月下旬現在、笠間市の果樹園内に設置した予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺数は平年よりやや多い～多い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多目的防災網（目合い6mmまたは9mmクロス等のネット）はカメムシ類の園内への侵入を防ぐため、被害軽減に有効である。
- ② カメムシ類は夜温が高くなると活動が活発になり、果樹園に飛来する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合は、活動の鈍い早朝に薬剤防除を行う。
- ③ カメムシ類の発生時期や発生量は地域や圃場によって異なるため、定期的に圃場全体を観察し、早期発見と薬剤による初期防除を徹底する。

半促成ピーマン

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並～やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 5月中旬現在、寄生花率（本年値 86.0%、平年値 73.4%）は平年よりやや高く、一花あたりの寄生虫数（本年値 7.9 頭、平年値 8.3 頭）は平年並である。
- ② 5月中旬現在、被害果率（本年値 3.8%、平年値 5.5%）は平年並であり、発生地点率（本年値 75%、平年値 53%）は平年並～やや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルスを媒介するので発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が花や果実にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ 天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

夏ネギ

1. 黒斑病（葉枯病を含む）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、発病度※（本年値 6.8、過去 8 年平均値 0.9）、発生地点率（本年値 88%、過去 8 年平均値 30%）ともに平年より高い。
- ② 気象予報によると、向こう 1 か月の降水量は平年より多いと予想され、発生を助長する条件である。

※発病度：病斑をもとに算出した数値、最小値は 0 で最大値は 100 となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病初期の防除に重点をおき、その後の発病状況に応じて薬剤散布を行う。
- ② 薬剤散布は、必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また、収穫前日数に十分注意する。
- ③ 薬剤感受性の低下を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

(夏ネギ 続き)

2. ベと病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、発病度※（本年値 8.8、平年値 1.9）、発生地点率（本年値 100%、平年値 28%）ともに平年より高い。
- ② 気象予報によると、向こう 1 か月の降水量は平年より多いと予想され、発生を助長する条件である。

※発病度：病斑をもとに算出した数値、最小値は 0 で最大値は 100 となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病初期の防除に重点をおき、その後の発病状況に応じて薬剤散布を行う。
- ② 薬剤散布は、必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また、収穫前日数に十分注意する。
- ③ 薬剤感受性の低下を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

（令和 6 年 5 月 31 日発表 病害虫速報 No. 5 参照）

共通害虫

1. オオタバコガ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 4 月第 1 半旬～5 月第 4 半旬までのフェロモントラップへの誘殺数は、水戸市、土浦市、龍ケ崎市、筑西市および坂東市で平年より多い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 施設栽培では、ハウスの開口部に防虫ネットを設置して成虫の侵入防止に努める。
- ② 中齢幼虫以降になると薬剤が効きにくくなるため、圃場をよく観察し、若齢幼虫のうちに防除を行う。
- ③ 幼虫が作物内に食入するとその後の防除が困難になるため、若齢幼虫の防除を徹底する。結球葉菜類では、結球始期前後の防除を徹底する。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、複数回散布する場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 病害虫防除所ホームページに、フェロモントラップの誘殺状況を公開しているので参考にする。

（令和 6 年 5 月 24 日発表 病害虫速報 No. 4 参照）

(共通害虫 続き)

2. シロイチモジヨトウ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
早い	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月第5半旬までのフェロモントラップへの総誘殺数は、つくば市で平年より多い。
- ② 5月下旬現在、夏ネギの一部圃場で発生を認めている。

[防除上注意すべき事項]

- ① 中齢以降になると薬剤の効果が低くなるので、圃場をよく観察し、集団で生息する若齢幼虫の早期発見に努める。
- ② 幼虫が作物内に食入するとその後の防除が困難になるため、若齢幼虫の防除を徹底する。結球葉菜類では、結球始期前後の防除を徹底する。
- ③ 施設栽培ではハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、複数回散布する場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 令和4年度に主要薬剤の殺虫効果について試験を行ったので参考にする。

(令和5年2月24日発表 病虫害発生予報3月号 p3-4 防除所レポート参照)

【その他の病虫害】

作物	病虫害名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	イネドロオイムシ	発生時期：早い 発生量：平年並	5月下旬現在、平年並の発生である。曇雨天続くと発生が助長されるので注意する。幼虫の発生が多く、食害が目立つ場合は防除を行う。
	イネミズゾウムシ	発生量：平年並	5月下旬現在、平年並の発生である。イネの初期生育が遅い水田、育苗箱施用剤を使用していない水田では発生に注意する。
ナシ	ハダニ類	発生量：やや多い	5月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
ブドウ	灰色かび病	発生量：平年並	5月下旬現在、平年並の発生である。
	べと病		
	ハダニ類	発生量：－	5月下旬現在、一部圃場で発生が認められている。圃場をよく観察し、発生を認めた場合は防除を行う。
ピーマン 促成	斑点病	発生量：平年並	5月中旬現在、平年並の発生である。
	うどんこ病	発生量：やや少ない	5月中旬現在、平年よりやや少ない発生である。
夏ネギ	ネギアザミウマ	発生量：平年並 ～やや多い	5月下旬現在、平年並～やや多い発生である。

サツマイモ基腐病の防除対策（植付期～生育期）

〔防除対策〕

1. 作業にあたっての注意

- ・発生地域と行き来のあったコンテナ等は、洗浄、消毒してから使用し、残さや土を圃場に持ち込まない。
- ・作業する圃場ごとに、農機具や長靴等についた土は良く落とし、水で良く洗浄する。
※コンテナや農機具、長靴等の洗浄は、圃場の近くでは行わない

2. 健全苗を確保するために

- ・来歴が不明な切苗等は絶対に使用しない。
- ・多発生地域からは、切苗等を持ち込まない。
- ・生産者間で切苗等の譲渡等は行わない。

〔採苗時の対応〕

- ・採苗時のハサミはこまめに消毒を行う。苗は地際から5 cm以上の位置で切る。
- ・採苗した苗は、採苗後速やかに苗消毒を行う。
- ・苗消毒用の薬液は、使用当日に調製し、登録の内容に従って浸漬処理を行う。

〔購入苗への対応〕

- ・切苗を購入する時は、基腐病対策が徹底されていることを販売店に確認し、未消毒の場合は購入後に必ず苗消毒を行う。

3. 侵入に備えた対策

- ・育苗終了後は、苗床の残さを育苗ハウスから持ち出して適切に処分する。苗床は、耕うんして残さの分解を促したのち、梅雨明け後の高温期に太陽熱土壤消毒を行う。
- ・排水の悪い圃場は、本病が侵入した際に発病しやすい傾向があるため、明きょ設置や耕盤破砕、枕畝の途中に排水溝を設置するなど、排水対策を徹底する。
- ・圃場ごとに植え付けた苗の苗床の場所や採苗日、ウイルスフリー苗などの購入先を記録する。

4. 早期発見のために

- ・定植後、少なくとも2か月間は、2週間に1回程度、地上部の葉の変色、株元の茎の黒変などの異常が無いか確認する。

※ 本病が疑われる症状を見つけた場合は、抜き取り等を行わず、速やかに各地域の農業改良普及センターまでご連絡ください。

茨城県総合防除計画におけるサツマイモ基腐病の遵守事項

茨城県では、全国的に発生しているサツマイモ基腐病について、すべての農業者（家庭菜園を含む）の皆様にご守っていただくルール（遵守事項）を定めました（令和5年4月1日に施行された改正植物防疫法に基づくものです）。

○遵守すべき事項

- ・県が実施するまん延防止のための調査に協力する。
- ・本病の発生を確認した場合には、関係機関へ連絡し、関係機関の指導の下、発病株を抜き取り、圃場（苗床を含む）外に持ち出す。
- ・本病発生圃場では、2年間、サツマイモを作付けしない（関係機関の指導の下、栽培管理する場合を除く）。
- ・本病発生圃場から種イモを採取しない。
- ・本病発生圃場では、発生の拡大が無いことを確認する。

コムギ赤かび病の発生状況と今後の対策について

「現在の状況」

- ① 5月中旬現在、コムギ赤かび病の発病総率(本年値 2.1%、平年値 0.8%)、発生地点率(本年値 82%、平年値 44%)はともに平年よりやや高い～高い。
- ② 小麦が赤かび病菌に感染しやすい時期は、開花期(出穂期 7～10 日後)から 10 日間程度であり、水戸市および龍ヶ崎市(いずれも農業研究所圃場)では、下図の矢印(←→)のとおりであった。
- ③ 4、5月の水戸市および龍ヶ崎市では、下図のように感染好適日が出現した。

水戸市（農業研究所圃場）

播種日	4月														5月																																				
	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17																
11/6											●	●	●	●	●											●	●	●											●	●								●	●	●	●
11/20	出																																																		
	出																																																		

龍ヶ崎市（農業研究所圃場）

播種日	4月														5月																					
	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
	●	●													●	●	●	●	●	●				●	●	●					●	●				
11/9	出																																			
11/21			出																																	

図 小麦の出穂期と赤かび病菌の子のう胞子飛散好適条件の出現状況

- ：子のう胞子の飛散好適日
(日最低気温 10℃以上、日最高気温 15℃以上で、降雨日またはその翌日)
出：出穂期(圃場の 40～50%程度の茎が出穂した日)
※地域や圃場により出穂期や飛散好適条件の出現状況は異なるので、参照の際は注意する。

〔収穫期以降の対策〕

- ① 収穫が遅れると、被害粒から健全粒へと感染が広がるおそれがあるため、適期収穫に努める。また、圃場内で倒伏した部分は多湿条件となり、感染が広がっているおそれがあるため、その部分は刈り分けて処分する。
- ② 含水率の高い麦を収穫した場合、袋の中などで本菌がまん延することがあるので、収穫後は時間をおかずに適切な乾燥・調製を行う。
- ③ 小麦では、グレーダーによる粒厚選別（2.4mm 以上）等は被害粒の除去に有効である。

Ⅱ．今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 6 月 1 日から 6 月 30 日)

気象庁 (5 月 30 日 発表)

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]	要素	予報対象地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
	気温	関東甲信全域	30	40	30
	降水量	関東甲信全域	30	30	40
	日照時間	関東甲信全域	30	30	40

[概要]

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

< 1 週目の予報 > 6 月 1 日 (土曜日) から 6 月 7 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率 50%

< 2 週目の予報 > 6 月 8 日 (土曜日) から 6 月 14 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 40%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 6 月 15 日 (土曜日) から 6 月 28 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 50%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散（ドリフト）しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類（FRAC コード、IRAC コード）の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。